

「国有林への期待」

東村 高江区長 浦崎永仁

高江区の人々は、かつて山原船が沖縄本島の中南部と北部とを行き来した古き時代からこの豊かな山原の森の恵みを受け、それを糧として暮らしてきました。



当時は、国有林からの立木の払い下げや借地による細々とした農業が人々の主な仕事でした。昭和50年頃になって国有地の払い下げのもとに土地改良事業を導入して今日に至りますが、私たちの先人は長い間、山依存の生活でした。

森林事務所や森林官の配置も昭和16年以前の早い時代だったと地元の先輩方々から聞いています。これまで国有林と地域に常駐する森林官は、この地域の人々の生活と密接に関係し管理署には大変お世話になったと推察できます。

さて、時が変わって今、高江区の世帯・人口は、70世帯140人前後で推移し、1区1校の過疎の集落ですが、今日も豊かな森林に囲まれています。

私たちの地域では、過疎化対策として東村が打ち出している定住化促進団地建設に大いに期待しており、国有林の遊休地をその敷地として活用させていただけないかと東村役場に要望しているところです。

また、新たな産業の育成、観光振興の視点から新川ダム下流沿いに森林浴を目的とした遊歩道の整備をすることによって、この地域の活性化に繋がるのではないかと考えています。川沿いの大木や悠久の昔から削られた岩肌は実に見事なもので癒やしの空間そのものです。

このような魅力的な場所が国有林には沢山あり、地元として時代のニーズに即した活用を相談していきたいと考えています。